上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

国際協力
人材育成センター
SHRIC

SOPHIAで高度な教養と実践力を培い、国際貢献のステージへ

国際協力、国際機関への道

MEN AND WOMEN FOR OTHERS, WITH OTHERS

── 他者のために、他者とともに

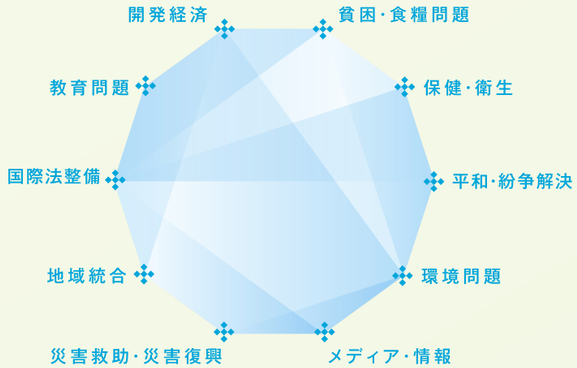
上智大学が掲げるこの教育精神は、国際協力を志す人たちに深く理解され、象徴的なマインドとして心に通じることでしょう。本学は、叡智と実践が結集された「国際協力、国際機関への道」を提供します。

国際協力の多面性

「国際協力」とは非常に包括的な概念です。解決すべき課題が、貧困問題、食糧・水問題、衛生、教育、雇用など多岐にわたる一方、その課題解決に取り組む単位も国家、国際機関、法人、企業、NGOやNPO、個人とその様態はさまざまです。
このような国際協力の多面性を整理し、自分の役割を見出すことが国際協力への第一歩といえます。まずは、国際協力の分野、構造・仕組みを整理してみましょう。

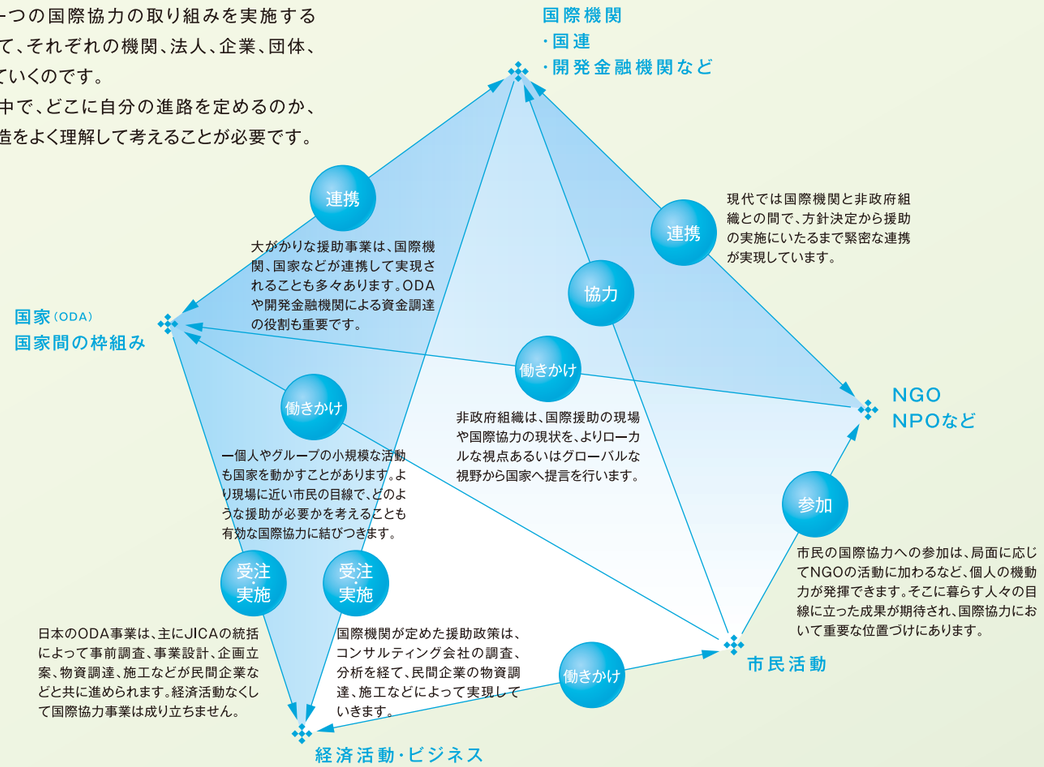
国際協力の分野

国際協力を必要とする課題は、ある一つの分野からのアプローチで解決できるものではありません。複合的な課題解決力と共に、ローカルな視点とグローバルな視野を身に付けている必要があります。例えば、貧困問題。食糧の供給を要すると同時に、持続的な解決に向けては、教育機会の提供、雇用の創出、産業の育成などに取り組むことも不可欠です。さらには、このような現状を世界に伝えるメディアの力も国際協力の一つといえるでしょう。このように、単一的な捉え方ではなく、立体的な課題の解釈の上で、自分自身が果たすべき役割を見つけていくことが肝要です。



国際協力の構造と仕組み

政府や国際機関のように、政策決定によって大きな力を動かす仕組みが国際協力には必要です。一方で、一人ひとりの草の根運動、市民目線でのNGOやNPOの活動も欠かせません。最近では国際機関とNGOやNPOとの連携が強化されており、国際協力の構造はより複雑化し、また連動しています。一例ですが、日本のODA方針によって定められた国際協力の取り組みは、それを実行するためにJICAによって企画、立案され、コンサルティング会社などの調査を経て実施にいたります。その際には企業によって物資、機器などが調達されたり、NGOが物資の配給に取り組んだりします。このように、一つの国際協力の取り組みを実施するフローにおいて、それぞれの機関、法人、企業、団体、個人が関わっていくのです。
このフローの中で、どこに自分の進路を定めるのか、国際協力の構造をよく理解して考えることが必要です。



国際協力、国際機関をめざすみなさんへ

上智大学 学長
理工学部 教授
曄道 佳明

上智大学は、Men and Women for Others, with Othersを教育の精神として掲げ、国際的視野のもとで良質なグローバル社会の形成にリーダーシップを発揮する人材を育成してきました。国際協力は、まさに私たちの教育を具現化する分野であり、これまでに多くの世界的リーダーを輩出しています。この冊子はその取り組みの体系を紹介するものです。上智での国際協力への多角的な学び、実践的学びに触れてみてください。

上智大学 国際協力人材育成センター所長
大学院グローバル・スタディーズ研究科
国際協力学専攻主任・教授
植木 安弘

「国際協力人材育成センター」は、将来国際協力を目指す学生のみなさんをサポートするために2015年7月に設立されました。センターのメンバーは皆国際経験が豊富で、国連や各種国際機関で活躍し、現在本学で教職についている人達が中心となり、さらに、アドバイザリー・ネットワークには現職の国際機関や国際協力に携わっている多くの方々が集まっています。みなさんのキャリア形成をお手伝いします。

[表紙]
UN photo by 1Eric Kanalstein 2Martine Perret 3Marco Dormino 4WFP/Phil Behan 5Logan Abassi 6Albert González Farran 7Pasqual Gorriz
[本頁]
UN photo by 10Martine Perret
Photo: 8今村 健志朗/JICA, 9 11飯塚 明夫/JICA, 12 13久野 真一/JICA

国際協力分野で活躍するための道が上智にある

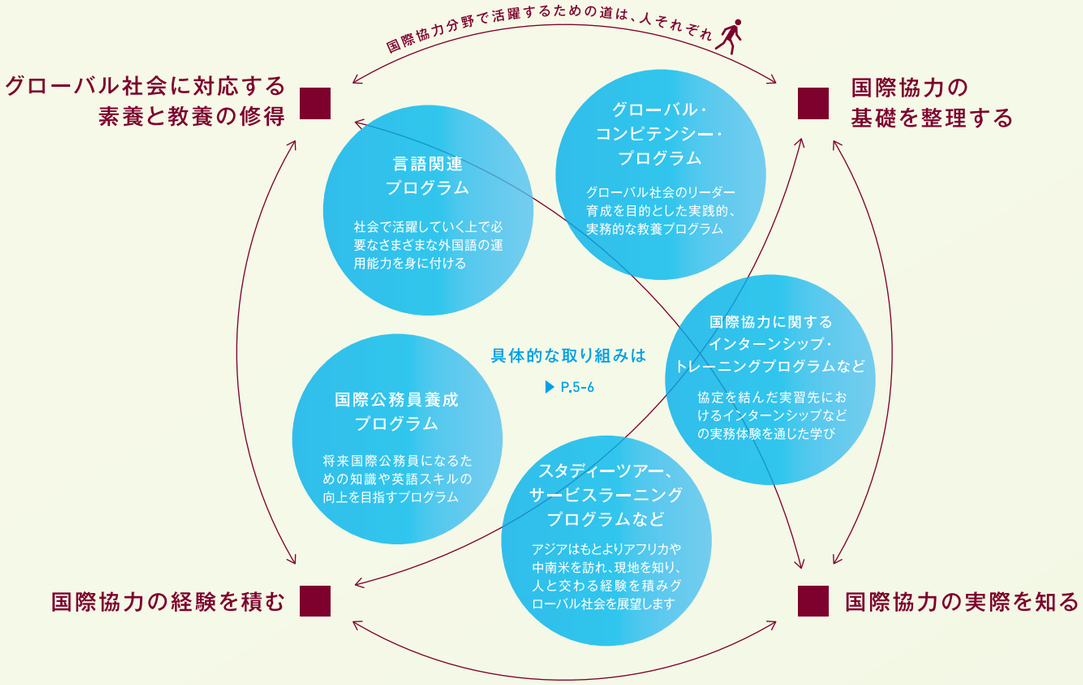
本学では国際協力への道筋として、基礎知識の整理から実務経験までのプログラムをラインナップ。
体系的でしかも、豊富なオプションが用意されています。

国際協力人材育成センターによるサポート

国際協力への道筋は、人それぞれの想いによって多様であり、その道を歩むためには、知識の体系的整理や実践的プログラムへの参加計画の立案などが必要です。国際協力に関わる科目履修、学科で学ぶ専門性と国際協力の関連付け、実践プログラムへの参加のノウハウなどのアドバイスを行います。また、国際機関やNGOの責任者、経験者と直接交流する場も提供していきます。

本学ならではの国際協力系機関との教育連携ネットワーク

国際協力、国際機関への道を体系的に整備するために、学外機関との連携が充実しています。国連の代表的機関WFP、UNDP、UNHCR、FAOをはじめ、アフリカ開発銀行、さらに各種法人、民間企業の協力も得て、国際協力の構造を多面的に理解する教育プログラムとして提示します。多くの卒業生が国際機関で活躍し、国際協力分野で実績を積み上げてきた本学の強みでもあります。



教育を提供する学内機関

グローバル教育センター

真のグローバル人材を養成するため、素養と教養を磨くカリキュラムの提供を目的に設立された組織です。グローバル社会の変動、発展に合わせて、教養教育の変革が求められているなか、同センターでは国際協力に必要な基礎事項を学ぶ科目から実務者によるレクチャー、研修プログラムなどを整備しています。

言語教育研究センター

本学が誇る語学教育の中心である当センターでは、多くの国際機関の公用語である英語、中国語、フランス語、スペイン語をはじめ、22言語を体系的、レベル別に修得するカリキュラムを全学に提供しています。また、Language Learning Commons(LLC)、学習アドバイザー、外国語コミュニケーショングループ、ライティングチューターなどの支援体制を整えています。

大学院グローバル・スタディーズ研究科 国際協力学専攻 2021年4月新設

多様化する「グローバルな課題」の解決を担う中核的人材の育成を目的として、「平和協力・平和構築研究」と「持続可能な開発／社会・教育開発研究」という2つの教育研究の柱の下で、実践型教育を意識した教員陣・教育課程の編成を行っています。教員陣は国際連合や専門的国際機関、国際開発金融機関、国際NGO、国際企業などでの実務経験が豊富な方々です。「国際協力学」の修士号が取得でき、多くの科目を平日夜間・土曜日ならびに集中講義として開講する時間割編成、「長期履修制度」を導入することで社会人の学びに対応しています。

▲ Language Learning Commonsの様子

▲国連Weeksでの「公開授業」

グローバル社会に対応する素養と教養の修得

国際協力を志し、それぞれの立場でその企画、立案、実施に関わり、また国際機関などで成果を挙げるためには、単一的な専門知識だけでは太刀打ちできません。高度な素養、教養が必要になります。語学力を中心としたコミュニケーション能力はもちろん、現代のグローバル社会における課題、とりわけ国際協力を必要とする複合的な課題に対しては、さらに文化、宗教、歴史、政治、経済などの知識整理と応用力の修得が欠かせません。

国際協力の基礎を整理する

今日のグローバル社会では、国際協力の多面的構造を理解することが重要だと本学では考えています。それは、
❶国際協力は複合分野にまたがる総合力で達成されるものであり、同時にその実行プロセスにおいても多分野、多機関の関与が必要となる。
❷国際協力の分野、構造を知ることで自分の果たすべき役割分担が明確になり、その進路について道筋を得やすくなる。
といった効果が見込まれるからです。断片的、部分的ではない総合力を有する国際協力人を目指してください。

▲上智大学 実践型プログラム「アフリカに学ぶ」カメルーン

▲ 国連Weeks シンポジウム「バンコク国連機関とアジア太平洋の持続可能な開発への課題と展望」

国際協力の経験を積む

個人で社会活動に参加し、弱者に手を差し伸べることも国際協力のひとつです。一方、国際機関が実施するプロジェクトに参画し、チームの一員として役割を果たす経験も是非積んでもらいたいものです。理論だけではなく、実際の現場に足を運ぶことで、国際協力の組織や現場ではどのような職種、仕事が稼動しているのか、どのような課題に直面しながら事業が遂行されていくのか、肌で感じる機会にチャレンジしてください。

国際協力の実際を知る

国際協力は、現地のニーズに応えるものであると同時に、国際社会の協調につながる取り組みでなければなりません。その取り組みが、対象となる地域や国にどのような効果をもたらしたのか、その検証も重要です。国際協力事業が、一方的な押し付けや財政的に大きな負担を強いることになることを避けつつ、一刻も早く解決すべき課題が山積しています。その実施にあたっては、取り組みの「仕組み」、「資金の拠出」、「文化・宗教・言語の壁を越えた背景理解」など、国際協力の実情として知るべき事項が多くあります。

国際協力分野について学ぶ多種多様なプログラム

国際公務員養成プログラム

「国際公務員養成コース」「国際公務員養成英語コース」「国際公務員をめざして（実務型国連集中研修）」「バンコク国際機関実務者養成コース：社会開発分野」は、将来国際公務員を志す学生や一般社会人を対象とし、基礎知識・スキルの向上を目指して構成されたプログラムです。本学国際協力人材育成センターが運営しています。

国際公務員養成コースI・II

養成コースI（春期）と養成コースII（秋期）で構成される週2回（計12セッション）の集中講座です。養成コースIでは国連と国連システムの組織を知り、国連への採用プロセスや競争試験の応募に備えつつ、筆記試験や面接に向けた準備講座を予定しています。養成コースIIでは国際機関に在籍のゲストスピーカーをお迎えするなどして、国際公務員への道筋がより明確になる講座を展開していきます。

国際公務員養成英語コースI・II

英語コースI（春期）と英語コースII（秋期）で構成される週2回（計12セッション）の集中講座です。国連を中心とする国際機関で必要となる英語力の向上を目指し、文書の要約・メモの作成方法・効果的な議事録の取り方などより実践的な場面を想定した講座を提供していきます。

国際公務員をめざして（実務型国連集中研修）

夏期休暇を利用し、ニューヨークの国連本部で、国連の現職スタッフや経験豊富な元職員を講師に招き、5日間の集中研修を開催します。国境を越えたさまざまな問題に対処している国連や国際機関の役割は大変重要であり、本コースではそのような機関で働く職員を目指す方々を対象に展開されます。ニューヨークで開催されるこのコースでは実際の現場を身近に感じることができ、将来のキャリアプランがより具体的になるような効果を狙っています。

バンコク国際機関実務者養成コース：社会開発分野（オンライン講座）

本講座は、国際協力人材育成センターと本学がバンコクに設立した教育事業会社Sophia Global Education & Discovery (Sophia GED)が共同で開催し、秋期のみ週2回（計10セッション）オンライン授業を行う集中講座です。バンコクに集う国際機関で活躍中の現役職員が講師を務め、ダイナミックに変貌するASEAN、特にメコン地域が直面するさまざまな社会開発課題についての見識を深め、実務的知識やスキルを学ぶことで将来の国際機関や国際協力におけるキャリア形成に役立てることを目的としています。

©UNESCOバンコク

緊急人道支援講座

緊急人道支援に取り組むための基礎的知識やスキルを身に付け、その後のキャリアに生かしてもらうことを目的としています。春期講座では、人道支援の基礎知識を学び、秋期講座では人道支援のスキルを身に付けます。講師は、国際機関やNGO、JICA、赤十字、民間などで緊急人道支援の最前線で経験を積まれた方々です。

©シャンティ国際ボランティア会

ジュネーブ国際・開発研究大学院との3+2プログラム

スイスのジュネーブ国際・開発研究大学院(The Graduate Institute of International and Development Studies)は多くの外交官や国際機関職員を輩出している著名な教育機関です。本学と協力協定を締結し、学部で3（または3.5）年間学修後、先方へ進学し、2年間の修士課程で所定の成績を修めることにより、計5（または5.5）年間で上智の学士号と先方の修士号を取得できるプログラムを実施しています。

海外有力大学院への特別進学制度

国際機関を目指す場合、一般的に大学院を修了することが求められます。本学は、本学大学院のほかに海外有力大学院と特別進学制度の協定を結んでいます。本学を早期卒業し先方の大学院1年のコースを修めると、最短4年間で、本学の学士号、先方大学院の修士号が取得できるプログラムもあります。

フォーダム大学大学院
（ニューヨーク）

国際政治・経済、開発を学ぶことができます。国連との連携も強く、国際機関へのアプローチとして適しています。

ジョージタウン大学大学院
（ワシントンD.C.）

政治学、コミュニケーション、公共政策などを学びます。国際協力と国際機関を目指すためには必要な分野です。

コロンビア大学大学院
（ニューヨーク）

教育学の名門Teachers CollegeとSchool of Professional Studiesで国際開発や国際協力等幅広い分野の学びを深めることができます。

ボストンカレッジ大学院
（ボストン）

教育政策や教員育成の分野において多くの人材を輩出している同大学院で、国際高等教育政策を学ぶことができます。

グローバル・コンピテンシー・プログラム（GCP）

上智大学の教育精神「他者のために、他者とともに」を体現するグローバル社会のリーダーに必要なグローバル・コンピテンシー（グローバル化対応能力）を養う実践的かつ実務的な教養プログラムです。「国際協力」、「グローバル・ビジネス」、「グローバル・メディア」の3つのコースを提供、これらの分野へのキャリアを検討する学生にとって必要な素養を体系的に学ぶことができます。（2021年度以降の新規受講者募集は行いません）

国際協力関連科目

基礎を学ぶ講義群

国際協力概論
ー日本による開発援助の潮流と仕組みー
国際協力・開発援助の潮流と仕組みについて理解を深めます。国際協力へのアプローチ科目です。

日本外交政策入門
現役の外務省職員による講義を通じ、日本を取り巻くさまざまな国際問題について理解を深めます。

グローバル化と国際貢献
現在人類が直面するグローバル化による諸問題に対する基礎的理解を目指します。

国際協力論1
地域住民と関わる草の根レベルでの協力に焦点を当て、より良い開発のあり方について考えます。

国際協力論2
性別、人種、民族、宗教や言語などの違いから生じる差異やニーズに配慮した開発について考えます。

国際教育開発・協力論
発展途上国における教育開発・協力に関する理論や国際開発協力機関の動向について学び、諸問題の解決方法について考えます。

アフリカにおける開発援助とビジネス展開
豊田通商㈱による連携講座です。開発支援におけるビジネスのあり方を伝えます。

国際緊急人道支援と強靭な社会づくり
自然災害、紛争などによって必要となる緊急人道支援と社会づくりについて、多くの事例に学びます。

自主研究ー人間の安全保障と平和構築
安全保障と平和構築に関する歴史的変遷などについて知り、今後の平和構築の課題を議論します。

平和構築とメディア
現代における主な軍事・政治紛争をテーマに、その原因と解決方法を探っていきます。

国際開発金融機関入門
経済の側面からグローバルな開発課題に取り組む国際開発金融機関の特徴、役割、活動などを学びます。

持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ
SDGsの意義や課題、その進捗状況について理解を深め、未来の活動につながるような機会を提供します。

実践型海外派遣プログラム

海外においてフィールドワークなどを通じて実践的に学ぶプログラムです。各プログラムは、本学の開講科目として取り扱われ、事前指導に全て参加し、現地研修において所定の成果を修めた者には、全学共通科目（選択科目）として単位が付与されます。

[インド]
インド・サービスラーニング・プログラム

[インド]
インドの社会経済・人間開発に学ぶ：南インドのケララ州を実例に

[アジア]
AJCU-AP サービスラーニング・プログラム

[アジア]
メコン経済回廊スタディーツアー：肌で感じるASEAN共同体

[タイ]
北部タイ・サービスラーニング・プログラム

[タイ]
バンコク国際機関実地研修

[ミャンマー]
ミャンマー・スタディーツアー

[東アジア]
グローバルリーダーシップ・プログラム

[カメルーン][コートジボワール][ベナン][南アフリカ]
アフリカに学ぶ

[エストニア]
エストニア・スタディーツアー

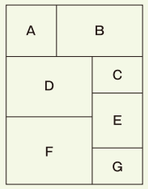
[スイス]
ジュネーブ国際機関集中研修

[アメリカ]
国連の役割と機能（国連集中研修）

国際協力に関するインターンシップ・トレーニングプログラムなど

- アフリカ開発銀行（AfDB）
- 国際協力機構（JICA）
- 国際通貨研究所
- 国連食糧農業機関（FAO）
- 国連教育科学文化機関（UNESCO）
- 国連本部とNGO・連携プロジェクト
- 日本ユネスコ協会連盟
- 赤十字国際委員会（ICRC）
- ACE（Action against Child Exploitation）
- 難民自立支援ネットワーク（REN）
- フォーリン・プレスセンター
- トムソン・ロイター ニューヨーク
- 共同通信社 ニューヨーク支局/ワシントン支局
- 日本経済新聞社
- 南洋貿易
- 駐日ブルキナファソ大使館
- 駐日マラウイ共和国大使館
- アンスティチュ・フランセ日本
- インスティトゥト・セルバンテス東京

国際協力分野の“今”を知るイベント



国連Weeks

上智大学では、2014年より毎年6月・10月に、国連各機関の協力を得て、グローバル課題を考え、議論し、理解を深めるイベント週間「国連Weeks」を開催しています。「国連の活動を通じて世界と私たちの未来を考える」をコンセプトとして、さまざまな国際機関と共催・協力の上でシンポジウムを複数開催する他、映画祭なども行うことで、見る・聴く・対話するという中身の濃いイベント週間となっています。

（新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年6月に実施を予定していた第13回は中止となりましたが、10月の第14回は全ての企画をオンラインで実施しました。）

緒方貞子先生メモリアルシンポジウム A
（オンラインにて開催）
「多国間主義と人間の尊厳を求めて」

2020年10月24日創設75周年を迎える「国連の日」を記念し、元国連難民高等弁務官で本学でも教鞭を執った緒方貞子先生の功績を振り返るとともに、国連関係者や専門家を交えて人間の尊厳や多国間主義における国連の役割について議論しました。国内外から1200人近くの聴衆が参加しました。

シンポジウム　国連75周年企画（オンラインにて開催） B
「グローバル課題の解決に向けたグローバルな行動
～感染症、地球温暖化、軍事紛争」

2020年10月12日、国連創設75周年を記念し、国連75周年記念担当国連事務次長のファブリツィオ・ホスチャイルド氏を招いて、シンポジウム「グローバル課題の解決に向けたグローバルな行動～感染症、地球温暖化、軍事紛争～」を開催しました。当センターの東大作教授が企画・統括を行った本シンポジウムでは、海外からのアクセスも含め多くの参加者があり、専門家を交えての議論や日本をはじめ海外の学生からの質問にホスチャイルド氏が答えました。

NHK総合テレビ『これで分かった 世界の今』という番組で本シンポジウムが紹介されたほか、シンポジウムの動画が、国連本部のウェブサイトにも掲載されました。

国際協力における重要な国・地域の現状を知る・学ぶ

2019年5月アフリカWeeksシンポジウム C
南スーダンにおける平和の再興（TICAD7パートナー事業）

ゲストに国連訓練調査研究所（UNITAR）広島事務所長 隈元氏、外務省アフリカ開発会議（TICAD）担当 紀谷大使を迎え、現地南スーダンの政府関係者がインターネット通話を通じて議論に参加し、植木教授、東教授が加わり、南スーダンの現状と課題、平和への再興について議論しました。現地の状況をリアルに伝え、会場の参加者とも質疑応答をするなど活発な議論が行われる盛況なシンポジウムとなりました。

アントニオ・グテーレス国連事務総長 特別講演 D

2017年12月14日、本学は国連事務総長として初来日したアントニオ・グテーレス氏をお迎えし、学生と市民を対象とした特別講演会「グローバル課題～『人間の安全保障』の役割～」（Special Lecture “Global Challenges: The Role of Human Security”）を開催しました。グテーレス氏は、大学や市民社会が「人間の安全保障」についての知的な議論を続け発展させることで、世界中の多くの政府が、この概念を使って紛争予防、持続的開発、持続的平和作りというグローバルな課題に取り組むことを促すことができるはずだと、会場を埋め尽くした研究者や学生達に向けてエールを送りました。

国際協力人材を育成する

UN Women事務局長来日記念! キャリアセミナー E
ジェンダー平等と女性の
エンパワーメントについて考える
「UN Women 事務局長&幹部職員に聞く、
国連キャリアの作り方」

2019年6月、UN Women（国連女性機関）事務局長 プムズィレ・ムランボ=ヌクカ氏を迎えて、ジェンダー平等や女性のエンパワーメント、キャリア構築について講演いただきました。また、UN Womenアジア太平洋地域事務所長 ムハンマド・ナシリ氏、日本事務所長 石川雅恵氏より業務内容や自身のキャリアを語っていただき、とても貴重なセミナーとなりました。

国際協力人材を育成する「国際機関・国際協力キャリア・ワークショップ」 F
（オンラインによるキャリア・セッション）

国際機関や国際協力分野でのキャリアを考える皆さんへグローバルキャリアのすすめについての講演や本学アドバイザリー・ネットワークである国際機関や民間企業・NGOで活躍されている方々がオンラインでお話したり、質問にお答えするキャリア・セッションを開催しました。

（2020年10月国連Weeksにて2日間開催。写真は参加したアドバイザリー・ネットワークのメンバー）

「国連職員と話そう!」 G

国際協力人材育成センターでは、「国連職員と話そう!」と題して、現役で活躍中の国際機関職員や国際機関での経験が豊富なゲストを招き、これまでのキャリア形成や業務内容についての講演や参加者からの質問にお答えするキャリアセミナーを開催しています。

（写真は2020年11月、元WFP上級プログラム政策官、佐藤由佳子氏によるオンライン講演の様子）

上智ならではの国際協力機関とのネットワーク

国際機関・国際協力系機関などとの教育連携

本学は、今日の国際協力の多面的構造を理解し実感する教育プログラムを構築するために、
多くの国際機関、国際協力機関、法人、民間企業と教育連携協定を締結しています。
その内容は、インターンシッププログラム、シンポジウムの共同開催、授業科目への講師派遣など多彩です。

国連人口基金（UNFPA）

人口と開発の諸課題、ジェンダーの平等などの解決を主たる目的とする国連機関。現代社会が直面するグローバル化の課題の中でも、人口、ジェンダーの問題は憂慮されています。

国連世界食糧計画（WFP）

飢餓問題の解決を目指す国連機関。緊急支援を行う一方で、飢餓のない未来をつくるための中長期的な支援も行っています。本学はアジアで初めて国連WFPと協定を締結し、シンポジウムやセミナー開催、学生食堂ではWFPメニューを展開するなどの啓蒙活動も行っています。

国連食糧農業機関（FAO）

国連食糧農業機関（FAO）はWFPと同様に飢餓の撲滅に取り組む国連機関です。すべての人々が栄養ある安全な食べ物を手に入れ、健康的な生活を送ることができる世界の実現を目標とし、食糧生産やその分配など持続的な生活の向上を目指し活動する国際機関です。

国連開発計画（UNDP）

貧困の根絶や不平等の是正、持続可能な開発を促進する国連の主要な開発支援機関です。「国家にとっての真の宝は人々である」という信念に基づき、人々や国々の能力を育てSDGsの達成を支援する活動を、約170の国・地域で行っています。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）

難民支援の問題に、紛争、迫害から自然災害までさまざまな要因があります。難民の保護、支援から恒久的な課題解決までを目指し活動する国際機関です。

国連教育科学文化機関（UNESCO）

教育、科学、文化の国際協力を通じて、平和と人類の福祉の促進を目的とします。本学の取り組みではカンボジアアンコール遺跡の保存・修復活動が有名です。

国連訓練調査研究所（UNITAR）

スイス・ジュネーブを拠点として、外交・経済発展・環境・平和・復興といった多分野において世界中で研修を実施する国際機関。日本では広島事務所を開設し、主に紛争後の復興や世界遺産、安全保障に関する研修を行っています。

国連大学（UNU）

グローバルなシンクタンクであり、大学院の教育機関で、本部を日本に置く。人類の生存、開発、福祉など国連とその加盟国が関心を寄せる地球規模の緊急課題を研究しています。本学の学生は国連大学との共同ディプロマコースに参加することができます。

アフリカ開発銀行（AfDB）

アフリカの開発支援を行う開発金融機関。国際協力における資金の動きやアフリカでの実際の取り組みを知る機会が提供されます。

経済協力開発機構（OECD）

OECDは、世界中の人々の経済的・社会的福祉を向上させる政策を推進することをその使命としています。2019年にインターンシップ派遣に関する協定を締結。本学学部生・院生を優先的に受入れていただき、キャリアセミナー等でも協力しています。

国際協力機構（JICA）

日本のODAを一元的に実施する世界最大規模の援助機関。発展途上地域では、現地の人達からJICAの取り組みについて多くの賞賛の声が聞かれます。

国際協力推進協会（APIC）

国際協力推進の諸事業を展開する内閣府の認定を受けた財団法人。この連携の下でミクロネシアからの留学生が本学で学んでいます。

国連公認NGO OCCAM

OCCAM（デジタル技術革新観測機関）はミラノに本部を置く、情報通信技術と途上国支援問題を研究する国連経済社会理事会、広報局公認のNGOです。

国連アカデミック・インパクト

国連広報局による国連と高等教育機関との連携を促すプログラム。本学は、人々の国際市民としての意識を高め、平和、紛争解決を促し、貧困問題に取り組み、持続可能性を推進することなどを謳っています。

国連グローバル・コンパクト

各企業・団体が、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加するプログラム。その理念は人権の保護、環境への対応などの活動で具現化されます。

米州開発銀行（IDB）

中米・カリブ加盟諸国の経済・社会発展に貢献することを目的とする国際金融機関。本学とIDBによる共同研究やシンポジウム・セミナーの開催、本学学生のインターンシップ実施などの分野で連携を強化していく予定です。

日本ユネスコ協会連盟

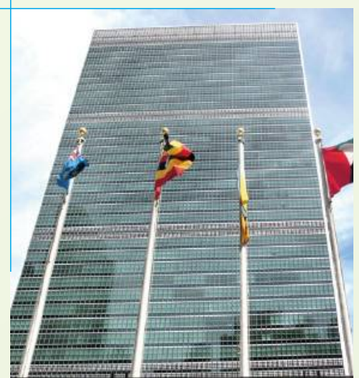
日本国としてUNESCOに加盟する以前に、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々によって設立された団体です（前身は「日本ユネスコ協力会連盟」）。本学と同団体は共同して国際協力および平和構築のための社会貢献活動を行っていく予定です。

アジア開発銀行（ADB）駐日代表事務所

アジア開発銀行（ADB）はアジア・太平洋諸国の経済・社会開発の促進を目的とする地域開発銀行です。本学との教育連携ではシンポジウム・セミナーの開催、本学学生のインターンシップなど訓練機会の提供、知識共有活動をしていきます。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

「子どもの権利」のパイオニアとして子ども支援活動を専門に行う、子ども支援専門の国際NGOです。日本国内では貧困問題解決や虐待の予防などに向けた事業や東日本大震災や熊本地震における緊急・復興支援を通して「子どもの権利」を実現する活動を行っています。



国際協力分野で活躍するアドバイザリー・ネットワークがあなたの将来について助言します。

公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟
事務局長
川上 千春さん

人として芯に据えるべきことは何だろう？

日本ユネスコ協会連盟は、国際協力のみならず、国内の被災地支援等を含めたさまざまな活動を行っている創設73年目となる日本発のNGOです。UNESCO憲章が謳う「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」の理念に基づき、全国でボランティアとして活動する300近いユネスコ協会のコーディネーションボディであると同時に、公益法人として、資金調達をしながら主体的に平和構築のためのSDGs達成に向けたプログラムを企画運営しています。グローバルな視点や知識は重要ですが、現在のコロナ禍も含めたさまざまな困難に直面し、思い通りにいかない事の方が多い日々の業務のなかにあって、周りのせいにせず、俯瞰力を持ち、努力を怠らない人が必要とされています。そのためにも、人として“Compassion”と”Resilience”を芯に据えることができるかどうかが問われているのではないか…と感じています。

PROFILE
大学卒業後、商社、財団の勤務を経て、1997年7月から公益社団法人日本ユネスコ協会連盟に勤務。国内、海外のさまざまな活動に携わり、2015年7月事務局長就任。現在に至る。

アフリカ開発銀行
アジア代表事務所長
花尻 卓さん

コロナのトンネルを抜けたその先に

新型コロナウィルスは、世界の、日本の、「不都合な真実」を映す鏡だ。貧困、格差、差別、デマ、ジェンダーの問題（就労・賃金・家事・育児の不平等、家庭内暴力など）など。本当に大切なことは、何か。考えている人は多いはず。感染症の危機は必ず終わる。コロナ時代を連帯して生き抜くとともに、その後の世界のあるべき姿を、考えよう。コロナ時代の気付きの一つは、互いに深く繋がる世界で、「対岸の火事」などないこと。貧困、著しい格差や不平等が見過ごされる限り、世界は平和で安全で健康な場所とはなり得ない。国際開発金融機関は、金融を通じて経済・社会の発展を支援し、貧困の撲滅を、「本当に大切なこと」が大切にされる世界を、目指す仕事。アフリカはその中心的な現場。決して楽じゃない。その逆でとても大変、自分が試され、だが磨かれ、胸を張れる仕事。コロナのトンネルを抜けたその先、あなたはどこへ進んでいきたいか。そのために何をすべきか。いま、考えよう。

PROFILE
旧大蔵省に入省、省内では関税局、理財局、国際局等で、出向では金融庁、外務省、内閣官房で勤務。2019年より現職。国際開発金融機関の勤務は、2009年～13年の米州開発銀行財務局職員としての勤務に続き、2機関め。

国連訓練調査研究所
（UNITAR）
持続可能な繁栄局長
隈元 美穂子さん

激変の時代こそ国際協力は必須、若者の参加は欠かせません

2021年の今、世界は大きな分岐点にあります。コロナ感染症により世界中で沢山の方々が亡くなり、経済社会面にも大きな影を落としています。貧困層の人々の増加、教育機会の減少、雇用機会の減少、女性に対する暴力の増加、そして気候変動などの環境問題は待ったなしの状態です。一方で、デジタル化は加速し、私達の生活は急速に変容しています。コロナがいつか収束した時に、コロナ以前の「ノーマル」に戻るのでは無く、今の社会が抱える格差、気候変動、環境問題などに正面から取り組む「新ノーマル」に移行することが必須となります。この様な激変の時代だからこそ、国際協力は必須ですし、やりがいも満載です。そして新しい視点やクリエイティブなアイデアを持った将来を担う若者である皆さんの参加は欠かせないのです。当センターにて学ぶ皆さんが、近い将来色々な分野において国際舞台で活躍される事を心待ちにしています。

PROFILE
九州電力勤務をへて、国際連合での勤務は19年に及ぶ。その間、国連開発計画（UNDP）ニューヨーク本部、ベトナム事務所、サモア太平洋地域事務所、インドネシア事務所にて活動。2014年より国連UNITAR広島事務所長、2019年7月より持続可能な繁栄局長。

上智大学 国際協力人材育成センター アドバイザリー・ネットワークについて

国際協力人材育成センターでは、国際協力分野で活躍されている有識者をアドバイザリー・ネットワークのメンバーとして組織化しています。上記の3名をはじめ、国際機関、NGO、民間法人など多種多様な所属や経験をお持ちの方々から協力を得ています。具体的な活動としては、国際協力分野での活躍を目指す若者へのキャリア支援を行います。また、直接有識者の方と話すことができ、国際協力分野における貴重なロールモデルと出会う機会となる交流会も、定期的に開催していく予定です。

国際協力、国際機関で活躍する先輩たち

民間での経験が今の仕事にも活かされている

独立行政法人国際協力機構(JICA)
ヨルダン事務所次長
馬杉 学治さん
1993年 経済学部経済学科 卒業

金融に関心を持ち経済学部に入学、都市銀行に就職。外務省に出向し国際協力の仕事に携わり、バングラデシュで貧富の差と金融が経済成長に直結しない状況に衝撃を受け、自分にできることを求めてJICAに転職。UNDP勤務も経て、今では民間・政府・国際機関で得た各視点と経験が仕事に役立っています。現在は中東の安定の要で周辺国から多くの難民をホストするヨルダンで、経済財政改革を支援しています。国連・欧米ドナーとも対話しながら開発協力インパクトの最大化を促しています。国際協力へのエントリーポイントは多様です。勉強したこと、今の仕事を活かすことができます。少し回り道でも多くのことに関心を持ち、何でも貪欲に吸収していけば道が開けるでしょう。

チャンスを生かして夢に到達して下さい

外務省総合外交政策局
国際機関人事センター
課長補佐
中野 美智子さん
1996年 外国語学部
ドイツ語学科 卒業

中学から外交官に興味を持ち、大学では国際関係論の副専攻を履修して、将来開発協力に関わりたいと強く思うようになりました。卒業後外務省に入り、ドイツでの研修、勤務、外務本省での日独外交、アジアの開発協力、障害者権利分野での勤務を経て、ラオスで広報文化外交に従事しました。現在本省の国際機関人事センターで、日本の若者が国際機関での就職を目指す契機となるよう広報業務を行っています。国際協力の道は、分野横断的な業務、専門を極める業務等さまざまで、それぞれに魅力があります。留学、インターン、セミナー等の機会や情報は上智に豊富にありますので、これを活用しない手はありません。自ら参加、体験し、人と会い、語ることでその先に進む新たなインセンティブが生まれます。是非チャンスを生かして夢に到達して下さい。

常に現場を歩き、弱い者の立場に立つということ

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン代表理事
公益社団法人Civic Force代表理事 など
大西 健丞さん
1991年 文学部
新聞学科 卒業

組織を動かすための資金調達と人材の確保が私の大きな仕事です。国際協力から、過疎地の再生や動物福祉まで、最近は活動の幅が大きく広がっているので、組織の形態もそれに合わせて変化させています。在学中、ボネット神父や故・村井吉敬先生のゼミで影響を受け、国際協力分野を目指すように。「常に現場を歩け、弱い者の立場に立て」と言われ続けたことが、今の仕事につながっている気がします。国際関係だけでなく、自然科学から人文科学まで幅広く学びました。世界のNGOの中には、国連機関の予算を凌駕するような規模の団体も出てきています。国際協力を志すみなさんは、国連だけでなく幅広い組織・団体を見て、今後伸びていく組織形態や事業形態を見極めて進路を選ぶことを勧めます。

恩師に恵まれたおかげで、国連の仕事の基礎力が培われた

国連コソボ暫定統治機構セルビア・ベオグラード
事務所長兼国連事務総長代表
山下 真理さん
1988年 法学部国際関係法学科 卒業

子ども時代をドイツやインドで過ごした経験から、高校生のときに将来は国連で仕事をしたいと思うようになりました。上智大学では国際政治学の猪口邦子先生、のちに国連難民高等弁務官として活躍された故・緒方貞子先生などの恩師に恵まれ、国連で仕事するために欠かせない基礎力は四谷の4年間で培われたと言えるでしょう。また、英語でアカデミックな文章を記述したり、プレゼンテーションをするスキルも上智大学で徹底的に鍛えてもらいました。国連の仕事に最も必要なのは「情熱」です。ぜひ勇気を持って、世界に貢献できる仕事に挑戦してください。専門分野の知識や語学力はもちろん必須ですが、それ以上に「国連で働きたい」という強い意志が原動力となるでしょう。

途上国について多くのことを恩師から学ぶことができた

独立行政法人国際協力機構(JICA)
南アジア部南アジア第一課
國武 匠さん
2006年 外国語学部英語学科 卒業

アフガニスタンでの勤務や国連食糧農業機関(FAO)での勤務を経て、現在は世界最大の貧困人口を抱えるインドの農村貧困解決のため、農業振興や森林管理事業の企画、形成をしています。上智大学では英語学科に入り国際関係論を副専攻として選んだのですが、そこで出会ったのが都市の貧困問題を研究されている下川雅嗣先生*でした。先生から、途上国と日本との関係について多くのことを学び、私が今取り組んでいる仕事の基盤ともなっています。異なる考え方や価値観を理解し尊重しようとすることが、海外で働く中で信頼関係を築く方法だと思います。
ぜひ学生時代にいろんな経験をして、多様な価値観に触れてください。

＊現総合グローバル学部教授

終わりなき探求心を持って

国連世界食糧計画(WFP)
ダマジン事務所長(スーダン)
古田 到さん
1996年 外国語学部英語学科 卒業

国際協力の道を志したのは「一つでも多くの国を訪れたい」と、「人を支援する仕事がしたい」という二つの強い思いを叶えられると考えたからです。現在、スーダンにて、食糧支援をはじめとした数々のプロジェクトを運営しています。先進国のように設備が整っていない途上国の環境に慣れていくことや、人々の多様な感覚に戸惑いながらも理解すること、試行錯誤を通して現地の政府や団体と粘り強く交渉することは当然ながら一朝一夕ではできません。まずは学生時代にどんな形でも良いから世界に飛び出してみて自分なりのやり方を模索してほしいです。ずっと探究心を持ち続けてください。

大切なのは希望の道に到達する方法を考え、チャレンジすること

在ナッシュビル日本国総領事
(UN Women日本事務所初代所長)
福嶌 香代子さん
1981年 外国語学部
英語学科 卒業

卒業後、外務省に入り、外務本省及び海外の日本大使館、総領事館での勤務を通じて国連、広報、開発、環境、科学技術などの分野での外交に携わるとともに、国連に2度出向し、2015年4月から2年間、UN Women日本事務所の所長として、事務所の開設、日本の関係者とのパートナーシップの構築、UN Womenに関する広報などに携わりました。上智大学で国際法、憲法、経済学などを学び、英語力を培えたことや、国際色豊かなキャンパスでの異文化体験などが、これらの仕事の基礎として役立っています。ひと口に国際協力といっても分野はさまざま。自身が関心をもったことについて調べ、インターンシップやボランティアの機会などを積極的に活用しながら、希望の道に到達するための方法を考え、チャンスを捉えて、果敢にチャレンジすることが大切と思います。

上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

上智大学公式HP https://www.sophia.ac.jp
国際協力人材育成センターHP https://dept.sophia.ac.jp/is/shric/index.html
https://www.facebook.com/SophiaHRIC/ @SHRIC2015

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
[国際協力人材育成センター(2号館1階)] TEL:03-3238-4687
[入学センター(12号館1階)] TEL:03-3238-3167 FAX:03-3238-3262

2021年3月/国際協力人材育成センター